

第5学年国語科学習指導案



研究主題 言葉を豊かにし、自分の考えや思いをもち表現できる児童の育成
～国語科指導法の充実～

1 単元名 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう
学習材 たずねびと

2 単元の目標

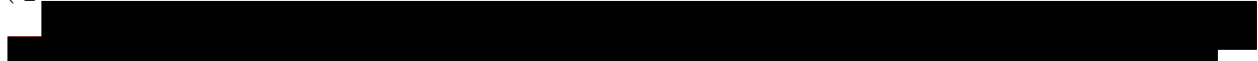
- ◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
- ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
- 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
- 進んで物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。

3 単元の評価規準

知識および技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。 【(1)オ】	・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。【C(1)エ】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。【C(1)オ】 ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。【C(1)カ】	・進んで物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。

4 単元について

(1)



年生「なまえつけてよ」の学習において、会話や行動の叙述から、登場人物同士の関係性の移り変わりを読み取り、それに対して自分の考えをまとめる学習を行った。場面ごとの登場人物の心情の変化を読み取ることで、関係の変化を読み取ることができた。しかし、作者の表現の仕方や作品からのメッセージに対して自分なりの考えをもつことや、またそれらを友達に伝えたり、友達の考えを聞いて自分の考えを広げたりすることに対しては課題がある。そこで、本単元においては、物語の全体像を捉えた上で、作品から得たメッセージに対しての自分の考えをまとめ、友達に伝えるという言語活動に取り組み、自分の考えを表現したり広げたりする力を身に付けられるようにしたい。

(2) 単元設定の理由(単元観・教材観)

本教材は、広島出身で被爆二世である作者が、広島で起きた原爆投下について、主人公「綾」を通して描いた作品である。主人公の「綾」は児童と同じ11歳であり、どちらも戦争を知らない世代である。「綾」とともに広島を訪ね歩き、原爆が広島にもたらした現実を知る中で、児童が「綾」の心情に自分自身を重ね合わせながら考えを深めていくことができるようにしたい。本教材の学習

を通し、実際に起きた原爆投下という悲しい出来事について知り、平和の大切さについて考えたり、当時の人々の思いを受け継いでいくことの大切さに気付いたりすることを目指したい。

本単元では、「綾」の心情の変化をもとに、物語の全体像を捉えていく。「綾」の心情につながる行動描写や情景描写が多く見受けられるため、どの叙述を根拠にしたのかは一人一人違ってくだろう。また、単元の学習を通して児童自身もつ考えについても、それぞれの児童の経験によって違いが出ると考えられる。そういった一人一人の考え方の相違点や共通点を共有し、読み深めることで、学級内でのよりよい対話につなげていきたい。

5 主題にせまるための手立て（戸山スタンダードを基準に）

○物語の具現化

「自分の考えや思いをもち表現できる」ようにするために、物語の具体的なイメージができるようにすることが必要である。そのために、主人公の「綾」が出会った人や物を図などにまとめ、児童が言語化しやすいようにする。またそうすることによって、児童が物語を読むときの視点も明確になることも期待できると考えた。

○単元計画の明確化

最初に「初発の感想」を書かせるところから単元に入り、児童の感想をもとに単元（学習）計画を作る。児童の「問い」をできるだけ単元（学習）計画に組み込めるようにする。そのために、初発の感想で「疑問に思ったこと」や「くわしく知りたいこと」を具体的に書かせ、まなびの過程に沿って「言葉や表現」「行動や心情の推移」「全体像」のように、分類していく。その際も授業者は児童に付けさせた力を明確にしておき、単元（学習）計画に反映させていく。こうすることによってより主体的に単元（学習）計画が立てられると考えた。

○毎時間の振り返り

毎時間「振り返り」の時間をつくる。次の学習につなげられるようにするために、学習状況を自覚できるような振り返りにする。振り返る視点を固定化して提示し、自己の学習を振り返る習慣を身に付けさせる。また、振り返りの視点に対して4段階での振り返りをし、1項目だけ選び自己分析をする。

○辞書引き学習や読書活動の充実

物語を読み、分からない言葉や表現を辞書を用いて調べる活動を取り入れる。辞書引き活動は本単元のみならず、継続して取り入れる。また、本単元の学習期間中は読書旬間でもあるため、物語と関連した本を手にとれるように工夫する。

6 学習指導計画（全7時間 本時5時間目）

時	○学習活動	指導上の留意点	◆評価規準・評価方法等
1	○単元扉を読み、題名などからどのような物語かを想像する。 ○全文を通読し、感想や考えをもつ。 ○分からない言葉や表現を調べる。	・広島の様子について、写真や動画資料、google earthを活用して、イメージをもてるようにする。	◆物語の全体を通読して内容の大体を捉えている。(発言・記述)【思・判・表】 ◆登場人物や出来事について、自分の考えをもち、表現している。(記述)【思・判・表】
2	○感想を交流し合う。 ○単元の学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。	・P120「見通しをもとう」を参考にどのように読んでいくとよいか確認する。	◆物語の全体像を捉えて考えを交流することについて、学習課題を立てている。(発言・記述)【思・判・表】
3	○本時の学習課題を捉える。 ○全文を通読し、場面を確かめる。 ○それぞれの場面で、「綾」の前に現れたものや人物を整理する。 ○広島に行くまでの「綾」の気持ちについて想像してまとめる。 ○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。	・表の形に整理するなどして、場面ごとに、「綾」の前に現れたものや人物をまとめていく。	◆第4場面までの「綾」の心情を、行動や情景、心情描写を基に捉えている。(記述・発言)【知・技】
4	○本時の学習課題を捉える。 ○広島に着いてからの「綾」の心情を捉える。 ○物語全体を通した「綾」の心情の変化について話し合う。 ○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。	・表の形に整理するなどして、場面ごとに、「綾」の前に現れたものや人物をまとめていく。	◆第5場面以降の「綾」の心情を、行動や情景、心情描写を基に捉えている。(記述・発言)【知・技】
5 本時	○本時の学習課題を捉える。 ○「綾」の心情の変化に影響を与えたものや人、出来事について考える。 ○ノートに書いたことを基に話し合う。 ○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。	・考えの根拠となっている叙述を提示させたり、これまでまとめたものを提示しながら考えを述べさせたりする。 ・互いの考えの共通点や相違点を意識させる。	◆中心人物である「綾」の心情の変化に影響を与えたものは何か、叙述をもとに考えている。(記述・発言)【思・判・表】 ◆まとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(発言・記述)【主】

6	<p>○本時の学習課題を捉える。</p> <p>○最後の場面での「綾」の心情について考える。</p> <p>○考えたことをもとに、友達と話し合う。</p>	<p>・叙述を基に、「綾」の心情について捉える。</p>	<p>◆最後の場面を作品全体と関わらせながら読み深め、物語の全体像を捉えている。(記述・発言)【思・判・表】</p>
7	<p>○本時の学習課題を捉える。</p> <p>○初発の感想を振り返りながら、「たずねびと」を読んで変化した自分の気持ちや考えを書く。</p> <p>○本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>	<p>・「たずねびと」という題名や「綾」の心情の変化、物語の全体像、戦争についてなど、考えをまとめる着眼点を設定して、さらに深められるようにする。</p>	<p>◆作品を読むことで起こった自分の気持ちや考えの変化について気づいている。(記述・発言)【思・判・表】</p> <p>◆作品を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをまとめることができる。(記述・発言)【主】</p>

7 本時の指導（5 / 7時間目）

（1） 本時のねらい

- ・ 中心人物である「綾」の心情の変化に影響を与えたものは何か、叙述をもとに考えることができる。

（2） 本時の展開

学習活動	◎指導上の留意点	◆評価（方法）
1 前時までの学習を振り返り、綾の心情が変化したことを確認する。 2 広島を訪れる前と後の、綾の心情の変化について確認する。 3 本時の課題を確認する。	◎第3時、4時で考えた、「名前」についての考えを、短冊を基に振り返る。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「綾」の心情の変化の1番のきっかけになったことは何か、考えよう。 </div>		
4 心情に変化を与えたものと、そう考えた理由について、ワークシートにまとめる。 C：陳列ケースに並べられたもの →たくさんの人が亡くなったことを実感したから。 →うちのめされるような気持ちになったから。 C：モニターに写されたたくさんの顔 →亡くなった方の顔を見て、実際にこの人たちが亡くなったことを実感したから。 C：被爆者のおばあさん →おばあさんの言葉が心に残ったから。 5 グループで考えを伝え合う。 6 全体で考えを共有する。 7 友達の考えを聞き、再度自分の考えをまとめる。 8 本時の活動を振り返り、次時への見通しをもつ。	◎前時までに掲示していた挿絵を用いて、「綾」が出会ったものや人について振り返ることができるようにする。 ◎例文を載せておくことで、理由を書く際の参考にできるようにする。 ◎小グループで考えを伝え合うことにより、全員が伝える活動を行うことができるようにする。 ◎自分の考えが変わった場合はどのように変わったか、変わらない場合はもう一度自分の考えを書くよう伝える。	◆中心人物である「綾」の心情の変化に影響を与えたものは何か、叙述をもとに考えている。（記述・発言）【思・判・表】 ◆まとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（発言・記述）【主】

(3) 板書計画

たずねびと

最初

綾と同じ名前

記憶に残らない名前

だれも覚えていない名前



最後

苦しみを味わった人々の名前

心に残った名前

綾を成長させた名前

◎「綾」の心情の変化の一番のきっかけになったことは何か、考えよう。

挿絵

たくさんの人が亡くなったことを実感したから。
うちのめされるような気持ちになったから。

挿絵

亡くなった方の顔を見て、実際にこの人たちが亡くなったことを実感したから。

挿絵

おばあさんの言葉が心に残ったから。
おばあさんが泣き笑いをしたことにとまどっていたから。